

《思い思いの若者たち》

暑くても「戦争と平和」を考える夏

顧問 布袋 太三

この夏の暑さはもうムチャクチャで、日本中をウンザリさせた。やはり地球は確実に年々暑くなっているのだと、誰もが文字通り肌で感じさせられた。地球温暖化の警告などこれまでは無関心にスルーしてきた人さえも、これはひょっとすると、そのうち大変なことになるそうだと思います。始めたかもしれない。

それに、この夏の突然の大雨や突風などの自然災害は「過去に経験したことのない」レベルを大抵は易々と越えてしまったり、またいつからか、当たり前のように人里に出没しだした熊がやたら人を攻撃してみたり、もはや自然界と人類との長い間の牧歌的な了解らしきものが、この夏はなぜか有無を云わせぬふうに次々と崩されてきた。私たちは自然との付き合い方の大きな曲がり角に、いよいよ差し掛かりつつあるのではないかと私は思った。

さて、この夏、日本のマスメディアが一斉に「戦争と平和」について膨大な特集を組んだことを知っているだろうか。「戦後 80 年」の節目とはいえ、テレビも新聞もまるで入念に示し合わせたように重厚で興味をそそる企画を取り揃えた。

たとえば、CS は連日長大な戦争映画を流し続けていたし、その他のテレビや新聞は第二次大戦の貴重な未公開データや市井の人々の切実な手記を題材にした、いくつものドラマやシンポジウムを次々に流し続けていた。それら全ては改めて「戦争の愚かさ」と平和の尊さを強烈に訴えかけていたし、同時に現在進行中の悲惨な戦争の極悪な仕掛人たちにも、明瞭に NO を突きつけるものとなっていた。この夏はメディアもよく頑張った。

先日、私は戦争と平和を考える市民反戦シンポジウムに参加してきた。会場は大阪郊外の小さな町の市民会館だったが、およそ 1,000 人に近い人々で大盛況だった。私は日本各地で開かれるこの手のシンポにはよく参加しているが、最近は参加者数が増加し始めた。何処へ行っても、日本には根っからの純粹平和主義者がいっぱいいるということだと思う。

ところで、今回の集会では私は、藤原辰史という気鋭の食と農の歴史学者に注目していた。彼は謙虚で斬新で明快な語り口の人だが「かつてのドイツ食糧危機とナチス」についての話などは実に刺激的でもあった。

集会の後、私は大阪駅近くのジュンク堂で彼の著書を数冊買い込んだ。重くなったカバンを小脇に、私は少し気分をハイにして帰途を急いだ。この夏のちょっとイイコトだった。

田辺市ひきこもり支援啓発講演会

9月20日（土）と歌山県立情報交流センター Big・U にて、2 人の講師を迎え『生きづらさを抱える方に寄り添う支援と、支える家族や支援者が心をすり減らさないためのセルフケア』をテーマに講演会が開かれました。

第 1 部は、長内綾子先生が『不登校・ひきこもり支援の現場から～生きづらさに寄り添って～』をテーマにお話しくだしました。

ご家族が不登校（ひきこもり）本人の状況をまず受け入れ、信頼関係を築くことがステップの土台となる。その対応方法として、身近な例を交えながら分かりやすく説明してくださいました。そして「薬を処方することで患者さんの問題を解決するのではなく、地域とのつながりを処方することで問題を解決する」「ユーモアを取り入れる」「居場所 × ピアのチカラ」が大切だと語られていました。日々、ご本人に向き合っておられるご家族はたいへん努力をされていると思います。改めて、みんなが過ごしやすい社会を築いていくにはどうしたらいいのかと考え直す、良いきっかけとなりました。

第 2 部は、浅井育子先生が『支える側のセルフケア～ネガティブな感情の扱い方～』をテーマにたくさんの実例をあげて、感情との向き合い方などをお話しくだしました。

日々、私たちは自分に起きる出来事を受け取るとき、自分のフィルターを通して受け取っている。そんな中、自分に起きるその時々感情を自分自身に「どんな気持ちだったのか？」などと問いかけながら寄り添っていく。そして、いろんな気持ちに気づき、どんな気持ちもゆるし、しっかりと感じてあげる。自分の中にある感情のエネルギーを否定することなく、解放してあげる。その方法を具体的な例をあげて説明してくれました。

生きているといろんな感情が巡ります。どの感情にも良し悪しはなく、自分自身が自分に寄り添うことが大切で、そうすることで人に寄り添うことができるのでは……と実感しました。

とても学びの多いひとときとなりました。長内先生、浅井先生ありがとうございました。



スタッフ紹介

谷 公美

7月から新宮市にて、あづまブラッツと南紀若者サポートステーションを兼務でお仕事させていただいております。「支援者は伴走者であり、主役は相談者である」という、福祉の基本を常に念頭に置き、相談者の思いに寄り添う支援をしていきたいと思っています。初心忘るべからず！

文岡 詩帆

8月からハートツリーの事務員として働いています。周りのスタッフに支えられながら、成長していきたいと思っています。業務内容を早く覚えて、1日でも早く貢献できるようがんばります。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、何卒よろしく願い致します。